

モンゴル語の「死」を意味する表現について

鯉 洵 信 一

はじめに

モンゴル語における「死」を意味する表現について関心を抱きはじめてのは、4、5年前から続けられているアジア研究所の共同研究「諸民族の自然観研究」で「モンゴル人の自然観」を考える中においてであった。

「自然観」ということになると、突きつめていくとそれは、自然と神と人間の関わりということになり、またその関わりは、自然と人間の間に抜き難く横たわる、人間の避けて通れない生死の問題、とりわけ「死」というものをどう捉えるかという問題に突き当たってしまう。

そこで、モンゴル人が「死」というものをどう捉えているか、あるいは彼らの死後の世界観はどんなものか等を考えるひとつの参考として、「死」を意味するいろいろな表現を収集してみたわけである。気付いた折りおりにメモしていたが、1年間のモンゴル滞在機会（1985年9月～1986年10月）にモンゴル人研究者の協力を得て本格的な収集を行い、不明点の解明を行った。

こうした試みは1964年にK.Sagasterとドイツ在住のモンゴル人M.Haltod両氏によって行われている。⁽¹⁾両氏は約80項目ほどの表現を例示し、基礎語彙ごとの分類を試みている。両氏の収集はオルドス方言にまで及んでおり、示唆に富むものであるが、氏自身が述べているように十分な語彙は収集されていない。

ここには約220項目余の「死」を意味する表現を提示した。K.Sagasterは160項目くらいの表現が収集可能であると述べているが、それをはるかに越えて収集できた。しかし、それでもまだ完璧とは到底言えない。これは若干の辞典、文学書物類からの抽出とモンゴル人言語学者の教示によるものだけに拠っており、⁽²⁾不可欠と思われる仏教関係書物などからの収集は行っていない。従って、まだ相当の欠落が予想されるのである。こうしてみると、モンゴル語の「死」を意味する表現は極めて豊かなものであることが分かる。

本稿では、収集した表現の分類だけを試みることにする。本来なら、それぞれの表現を宗教的、語源的、歴史的等多面的に検討を加え、分析すべきであるが力が及ばない。稿を改めて検討したい。

それぞれの表現には、できるだけ例文を付した。例文は文学書等の原典からの典拠例示も相当数可能であるが、引用が長くなるのでトムルトゴー氏に教授を受けた会話体に統一した。

1. 「死」を意味する表現の分類と特徴

「死」は、あらゆる時代の、あらゆる民族にとって、常に最大の関心事のひとつであったろう。もちろんモンゴルの場合も例外ではなく、「死」に対しては古来、強い関心を払ってきたようである。それはここに提示した「死」を意味する表現の豊かさからも十分に推測できる。

こうした豊かなモンゴル語の「死」を意味する表現を整理してみると、いくつかの観点から分類することができる。

K.Kagasterは「モンゴル語の『死』を意味する若干の表現について」と題する論文の中で、これは大きく語源によるものと適用範囲によるものとに分けられ、さらに語源的なものは宗教的なものと、そうでないものとに分けられ、適用範囲によるものは俗語的に使用されるものと、敬語的なものという分類が可能だと述べている。⁽³⁾

また彼は、それぞれの表現を実際に分類することはしていないが、宗教的

なものは仏教に由来するものとシャーマニズムによるものがあり、敬語に対して軽蔑を表す表現があることに言及している。彼の示した分類は、モンゴル語の「死」を意味する表現を理解する上での基本的なものと考えていい。

ただ個々の表現の認識に関しては、K.Kagaster の見方はいくつか疑問の点がある。例えば「ügei bol- 一無に帰す」や「önggere- 終わる、過ぎる」についてK.Kagasterは「生の終わりに結びついた一般的表象から生まれたもので非宗教的概念」と述べているが、仏教の影響も無視できない。「amisqa-yin toGa güiçe- 一呼吸の数が終わる」なども、彼はシャーマニズムの表現としているが、仏教的な寿命の考えかたと見るのが妥当であろう。「nasun toGa güiçe-」や「nasun kemjiye güiçe-」なども同様である。⁽⁴⁾

いずれにせよ、K.Kagasterの分類を発展させて「死」に関する表現はさらに細分化ができそうである。例えば仏教やシャーマニズムに由来する宗教的表現は、思想的な面と葬送の儀礼的な面(埋葬方法、葬送儀礼等)に分けられ、さらに思想的な面はいろいろな他界観(転生、死後の世界観等)に分類できる。

非宗教的表現は「死」の物理的な側面を捉えた表現が中心になるが、これは物理的に生命、体がどうなることを「死」と捉えているか(目、頭、呼吸等)、あるいは死の原因、目的(戦争等での英雄的死、事故死、自然死等)によっても分類できる。また子供の「死」か否かの分類もできよう。

敬語的表現もいろいろな観点から分類できる。語源的には宗教的由来のものと、そうでないものに分けることができるし、適用の面からは年齢、あるいは生前の行い、死の原因などに分類することができる。

しかし、こうした分類は厳密にみていくと整然と分け得ない場合が多い。例えばK.Kagasterは「qada tüsi- 崖に寄り掛かる」をシャーマニズムによる表現で死後、肉体が(ひょっとすると魂も)去って行く場所としているが、⁽⁵⁾これは死体を崖に置く習慣から生まれた表現でシャーマニズム的表現とすべきかどうか難しい。同様の例は数多い。

そこで本稿ではこうした語源的、適用範囲あるいは宗教的、非宗教的といった分け方はせず、

- (1)物理的面(生命, 肉体, 呼吸等)を基準にした表現
- (2)寿命を基準にした表現
- (3)現世からの旅立ちを基準にした表現
- (4)死後に赴く先を基準にした表現
- (5)葬送儀礼を基準にした表現
- (6)その他の婉曲表現

に分けて考察してみることにした。

2. амь (ami-n—生命), бие (bey-e—肉体), амьсгал (amisgul—呼吸)等の状態による表現

これは амь, бие, амьсгал (呼吸)、амь, бие (生命)、гол (動脈)等の状態によって「死」を表現するものである。これらの各語句には以下に説明を加えるように、単に「死」を表すのみならず、それぞれに「死」の原因をも規定するものが少なくないのが特徴的である。またさらに、これらの表現はそれぞれに宗教的(仏教的, シャーマニズム的)あるいは慣習的背景等によっても分類できそうである。

(1) амь (ami-n)

① амь алд- (—alda-)

なんらかのアクシデントによって命を落とす表現。主に外部からの身の危険(戦争や染病等)と闘って命を落とす際の表現として使われる。

例: Хайрт нөхөр минь дайнд амиа алдсан юм.

② амь үрэгд- (—üregd-)

戦争, 自然災害等に遭遇して死ぬ際の表現。第三者による客観的表現に使われることが多い。類似表現: амь бүрл-

例: Хүү минь 1945 оны дайнд амь үрэгдсэн юм.

③ амь (нь) гар- (— (ni)gar-)

人間の「**амь**」は肉体の中に存在していて、「死」とともに体から「出る」といった考え方に基づいた表現。この場合の「**амь**」は「**сүнс**」(魂)と同義のものとして扱われている。

例：**Биднийг хүрч очход хэдийнэ амь нь гарчихсан байна.**

④ амь осолд- (— osulda-)

自然災害、事故等で命を失う際の表現。

例：**Охин минь нодин жилийн их үерт малаа хариулж яваад амь осолдсон юм.**

⑤ амь тави- (— talbi-)

この世の最後の息をするの意。この場合「**амь**」は「**амьсгал**」(呼吸)と同義に扱われている。年寄りの死、長期間の病の末の死などに使われる。

例：**Эцэг минь гэрээс үгээ арай царай хэлчхээд амь тавиж билээ.**

⑥ амь таср- (— tasura-)

長期間の病などで苦しんだ果てに死ぬ際の表現。

例：**Хөөрхий ээж минь мөн ч олон хоног шаналж байж амь нь тасарсан шүү.**

⑦ амь юүл- (— yegüle-)

目的のために(主に戦争で)命を惜しまず戦って死ぬ際の表現。

例：**Тэр жилийн дайн мөн ч олон аавын хүү амиа юүлсэн шүү.**

⑧ амиа үр- (amiya üre-)

明確な目的をもって、しかも善事のために戦って死ぬ際の表現。

例：**Тэд цөм эх орныхоо төлөө амиа үрсэн.**

⑨ амь эрсд- (ami eresde-) = амь бие эрсд-

⑩ амь юүтг- (— yegüdke-)

амиа үр- と同義語の古い表現。これは現在、ほとんど死語となっているようである。

⑪ この他、「**амь**」をもとにした表現には以下のようなものがある。

амь сүйр- (—süire-)	амь сүйд- (—süid-)
амь хорл- (—qourla-)	амь хохир- (—qokira-)
амь дуус- (—dacas-)	амь өнгөр- (—önggere-)
амь өөдл- (—ögedele-)	амь хураа- (—quriya-)

(2) **бие** (bey-e)

① **бие бар-** (—bara-)

何か善事のために命を惜しまず戦って死ぬ際の表現。

例：Хүү минь дайнд бие барсан юм.

② **бие хали-** (—qali-)

高位高官，王侯貴族等に対する敬語的表現。

③ **бие эл-** (—ele-)

肉体的，精神的な力が使い古されて，命が尽きるといった古い表現。現在ほとんど使われない。

(3) **амь бие** (ami bey-e)

① **амь бие гээ-** (—gege-)

主に戦争等で英雄的に命を失うときに用いる表現。

例：Тэгэхэд чинь амь биеэ гээхийг юман чнээ бодохгүй үзэлцэж
явлаа, муу ах чинь.

② **амь бие эцэсл-** (—ečusle-) = 前項① —гээ- に同じ。

③ **амь бие эрсд-** (—eresde-)

戦争，自然災害等で死ぬ際の表現。類似表現：**амь эрсд-**

例：Дэлхийн 2- р дайнд мөн ч олон сая хүн амь бие эрсджээ.

④ **амь бие алд-** (—alda-) = **амь алд-** を参照。

⑤ **амь бие осолд-** (—osulda-) = **амь осолд-** を参照。

(4) **амьсгал** (**амьсгаа**) (amisqal, amisqaga-n)

① **амьсгал хураа-** (—quriya-)

モンゴル語の「死」を意味する表現について

② амьсгал цэгл- (—čegle-)

③ амьсгал таср- (—tasura-)

④ амьсгал гар- (—gar-)

以上4例は、現世の最後の呼吸をする、息を引き取るの意。主に病死に用いられる表現。

例：Хүнд шархадсан тэр хүн төдөлгүй амьсгалаа хураав.

(5) гол (soul), сүүдэр (següder)

① гол таср- (—tasura-)

動脈、主脈が切れるの意。体の中に糸のような生命線があって、それが切れることによって人は死ぬという考えから生じたもの。

例：Эх хүн гэдэг чинь голоо тасрах хүртэлээ үрээ гэж явдаг
амьтан.

② сүүдэр хали- (—qaki-)

高位高官に対する敬語的表現。類似表現： бие хали-

3. 寿命面からの表現

人間にはそれぞれ天(仏)から与えられた寿命があるという考えから生まれた一連の表現がある。それらは時間的な面から амьсгал (呼吸), цаг (時間), хоног (日数), нас (歳)などに大別できる。また生存期間中の行為における限界の面からの若干の表現がある。

(1) амьсгал (амьсгаа) (amisqal, amisqaga-n)

① амьсгалын тоо цэгл- (amisqalin toga čegle-)

② амьсгалын тоо гүйц- (—гүйцэ-)

③ амьсгалын тоо дуус- (—dagus-)

以上3例は、現世において与えられた呼吸の数は定まっており、その限界に達したの意。主に病死、年寄りの死などに用いられる。

例：Заа, өвөөгийн чинь орчлон дээр амьд байх амьсгалын тоо

гүйцэх ч боллоо гэж хэлээд удалгүй өнгөрсөн юм гэнэ.

(2) цаг (цаг)

① цаг нь бол- (—ni bol-)

② цаг нь гүйц- (—гүйц-)

現世において定められた生きる時間が終わったの意。主に病死、年寄りの死などに用いられる。

例：Муу аав минь аргагүй цаг нь болоод л явлаа даа, хөөрхий.

③ цагийн тоо бол- (—yin toga bol-)

④ цагийн тоо гүйц- (—гүйц-)

⑤ цагийн тоо дуус- (—dacus-)

前項①, ②に同じ。

(3) хоног (qonug)

① хонгийн тоо (хэмжээ) бол- (гүйц-, дуус-)

現世において定められた生きる年数が終わったの意—以下同じ。

例：Хөөрхий тэр өвгний амьд явах хонгийн тоо дуусч гэнээ.

(4) нас (nasu-n)

① нас бар- (—bara-)

現世においてさだめられた生きる年数が終わったの意—以下同じ。

敬語的表現として広く用いられている。

例：Лувсан гуай удаан өвчилж байгаад өчгдөр нас барсан.

② нас эцэсл- (—ečusle-)

③ нас нөгч-, —нөхц- (—nögči-, —nököče-)

④ нас эл- (—ele-)

以上②～④は нас бар- に同じ。

⑤ нас гүйц- (—гүйц-)

⑥ нас бол- (—bol-)

以上2例は病気でなく、主に老衰で死ぬときの表現。

例：Тэр өвгөн бараг зуу дөхөөд нас болсон гэнэ билээ.

⑦ нас эцэс бол- (—ečus bol-)

⑧ насан өөд бол- (n-ögede bol-)

高齢に達した者の死に際する表現。類似表現： өөд бол-, эцэс бол-

例：Их зохиолч Л. Толстой 82 хүрээд насан эцэс болжээ.

⑨ насны тоо (хэмжээ) бол- (гүйц-, дуус-)

以上3例は① нас бар- に同じ。

例：Бурхны заасан насны тоо ч боллоо доо гэж тэр өвгөн хэллээ.

⑩ この他、「нас」をもとにした類似の表現には以下のようなものがある。

нас яв- (—yabu-) нас өнгөр- (—ünggere-)

насан (сүүдэр) үгүй бол- (—(seguder)ügei bol-)

(5) ус (usu-n—水)、таалал (tagalal—恵み)、нүгэл (nigül—罪業)

① ус уух хэмжээ дуус- (бол-) (—uucuqu kemjiye dacus-)

現世で飲む水の量は、それぞれ定められているという考えから生まれた表現。

例：Өвөг эцгийнх нь ус уух хэмжээ дуусаж гэнэ.

② таалал төгс- (бол-) (tagalal tögüs-)

現世における仏の恵みは、それぞれ定められているという考えから生まれた表現。仏の恵みによって生きている期間が終わったの意。

例：Хөгшин эцэг нь саяхан таалал болсон гэж сонссон.

③ нүгэлийн сав дүүр- (nigül-yin saba degure-)

現世で許される罪業の量が定まっているという考えからの表現。許される罪業の量が越えたため、来世では地獄に生まれるの意となる。

4. 現世からの旅立ち

仏教的思想によるものであろうが、モンゴルでは、「死」は現世からの離別であるという考えが強い。離別であるから、去るところの現世と向かうべ

き来世がある。去る現世を基準にした表現を挙げてみると以下のようなものがある。

ただ以下にあげた「現世」「この世」を表す「**ертөнц**」(yirtinčü)「**орчлон**」(orčilang)、「**хорвоо**」(qorbuca)、「**нарт** (—**ертөнц**)」(naratu yirtinčü)などはいずれも世界、宇宙、現世、地球、等々に訳される言葉であるが、厳密な意味で宗教上、どのような認識の違いがあるのかは定かでない。モンゴル人の一般的な理解では「**ертөнц**」は最も広い世界と考えられており、いわゆる「宇宙」に当たろうか。哲学的な意味で使われる「宇宙」もこの「**ертөнц**」である。「**орчлон**」「**хорвоо**」は似たような理解でいずれも「人の住む世界」であるが、「**хорвоо**」の方が広い世界（地球規模）を指し、「**орчлон**」は最も身近な、小さな世界（国、生活範囲）と考えられているようである。

(1) **ертөнц, орчлон, хорвоо, нарт** (—**ертөнц**)

- ① **ертөнцөөс од-** (—**eče od-**)
- ② **ертөнцөөс хали-** (—**qali-**)
- ③ **ертөнцөөс ангижр-** (—**anggijira-**)
- ④ **ертөнцөөс нөгчи-** (—**nögčĭ-**)
- ⑤ **ертөнцөөс өнгөр-** (—**önggere-**)

例：**Өдөр хоног өнгөрөх дутам ертөнцөөс одох цаг ойртсоор байна。**

以下同様に

- ⑥ **орчлонгоос** (од-, хали-, ангижр-, нөгчи-, хагац-, өнгөр-)
- ⑦ **хорвоогоос** (од-, хали-, ангижр-, нөгчи-, өнгөр-, хагац-)
- ⑧ **нартаас** (од-, хали-, ангижр-, нөгчи-, өнгөр-, хагац-)
- ⑨ **хорвоо өнгөр-** (—**önggere-**)

以上①～⑨の例は、いずれも現世からの旅立ちを表すが意味上の違いはほとんどない。

例：**Нартаас хагацах цаг минь ойртлоо доо гэж тэр өвгөн санаа алдан үгүүлэв。**

- ⑩ ертөнцөөс тонил- (—eče tonila-)
 ⑪ орчлонгоос тонил- (—ača tonila-)
 ⑫ хорвоогоос тонил- (—ača tonila-)

以上3例は、①～⑧と同様に現世からの旅立ちを表すが、この場合は、現世からの「消滅」といった意味が強く、現世での罪業のために赴く先は地獄となる。

例：Хийсэн нүгэр нь түүнийг ертөнцөөс тонилгожээ.

(2) гаслан (casalang—苦しみ)

現世は苦しみの世界であるという考えから生じた表現。以下7例は、いずれも苦しみからの解放、あるいは苦しみの消滅が「死」であるという表現。

- ① гаслангаас хагац- (—ača qasca-)
 ② гаслангаас нөхц- (—nöküče-)
 ③ гаслангаас тонил- (—tonila-)
 ④ гаслангаас гар- (—gara-)
 ⑤ гаслангаас ангижр- (—anggijira-)
 ⑥ гаслангаас нөгчи- (—nögči-)

例：Хүний орчлонгийн гаслангаас хагцах цаг нь болжээ.

また、この類似表現には「зовлон(苦しみ—jobalang)」があり、同じような用法で使われる。

- ⑦ зовлонгоос (хагц-, нөхц-, тонил-, гар-, etc.)

(3) зам (jam—道)

- ① зам нь шулууд- (—siluguda-)

現世の生活が終わって、来世に向かう道筋が整ったという意の表現。

類似表現に「зам нь шуудр- (—sicudra-)」がある。

例：Үхлүүт хэвтэж байгаа өвгөнийг маарамбо ирж үзээд зам нь шулууджээ.

5. 死後に赴く先

「4」の現世からの旅立ちに対応する表現である。人は死後、現世を旅立った後どこへ向かうのか、魂の行方、死後の世界を基準にした以下のような一連の表現がある。

(1) тэнгэр (tngri—天)、огторгуй (ogaturgui—空)

以下の表現は、「天」「空」に昇るの意である。モンゴル古来の天崇拜を中心としたシャーマニズムの考え方からきているものであろう。「тэнгэр」は頭上を覆う「天」であって、「хөх тэнгэр」(青い天)という表現があるように目に見えるものである。これに対し「огторгуй」は「空、空間」全体を指し、目に見えないものであり、「тэнгэр」よりも広い世界を指すようである。これは、「хөх огторгуй」という表現がないことでも理解される。

- ① тэнгэрт залр- (—jalar-)
- ② тэнгэрт хали- (—qali-)
- ③ тэнгэрт ажр- (—ajira-)
- ④ тэнгэрт гар- (—сар-)
- ⑤ тэнгэрт өөд бол- (—ögede bol-)

類似表現： өөд залр- (бол-) (ugede jalar-) 以下同様に、

⑥ огторгуйд (залр-, хали-, ажр-, гар-)

これらはいずれも敬語表現になるが、現在はほとんど使われていないようである。

(2) бурханы орон (ордон) (burqan-орун (ordu-n) —仏の国)、

диваажин (divajin—極楽)、 шамбал (sambhala—シャムバラ
=仏教のユートピア)、 нирван (nirvan—涅槃)

仏教からきた考えかたである。現世の善行によって、来世は「仏の国」「極楽」などに行く、涅槃に入るなどの表現。

モンゴル語の「死」を意味する表現について

- ① диваажинд морил- (—morila-)
- ② диваажинд залр- (—jalar-)
- ③ диваажинд оч- (—oči-)
- ④ диваажинд яв- (—yabu-)

例：Энэ өвгөн ч диваажинд очих буянтай хүн дээ.

以下同様に

- ⑤ бурханы оронд (морил-, залр-, оч-, яв-)
- ⑥ шамбал (ын оронд) (морил-, залр-, оч-, яв-)
- ⑦ нирваанд (морил-, залр-, оч-, яв-,)
- ⑧ шамбалын хаалга тат- (—qagalga tata-)
- ⑨ бурхан таал- (—tagala-)
- ⑩ бурханы таалалд багт- (—tagalal-du bagta-)
- ⑪ нирванд (морил-, залр-, оч-, яв-)
- ⑨ нирванд ор- (—oru-)
- ⑩ нирванд туул- (—tagala-)
- ⑪ нирван дүр үзүүл- (—dүri үjүgүr-)
- ⑫ нирваан дүр бари- (—dүri bari-)
- ⑬ нирваан ол- (—ol-)
- ⑭ нирваан төр- (—törü-)
- ⑮ нирваан бол- (—bol-)

例：Богд ламтай маань нирваан дүр үзүүлж ээ.

例：Тэр лам 70 наслаад бурхан таалсан.

- (3) там (tamu—地獄)、эрлэг (erlig—閻魔)、далд (dalda—陰)

上と同じ仏教による考えかたであるが、以下はこの世で犯した罪悪によって「地獄」に落ちるという表現。

- ① тамд оч- (—oči-)
- ② тамд ун- (—una-)

- ③ тамын ёроол сахи- (—irugal saki-)
- ④ тамын түлш бол- (—tulesi bol-)
- ⑤ тамын үүд тат- (—egude-n tata-)
- ⑥ эрлэгт оч- (—oči-)
- ⑦ эрлэгт залр- (эрлэг номын хаанд залр-)
- ⑧ эрлэгийн хаалга тат-
- ⑨ эрлэгийн цаламд өрт-

例：Эрлэгт очиж буян нүгэл хёороо шүүлгэх цаг нь ойртжээ.

- ⑩ далд ор- (—огу-)

ひとの目に見えない所に行くの意。悪人の死に際する表現。

例：Ийм муу амьтан нүднээс далд орвол таарна.

- (4) нутаг (nutug—故郷)

死後は故郷へ帰るという考えからきた表現。

- ① нутагтаа буц (—buца-)

例：Нөгөө муу Галсан гуай нутагтаа буцчихсан гэнэ.

6. 転生 (生まれ変わり)

仏教の輪廻思想から、人は死ぬと生まれ変わるという考えかたからきた表現がある。以下はその一連の表現である。

- (1) арилжи- (arilji—交換する)

- ① бие арилжи- (bey-e—)

今の体の寿命が終えて、新たな体が変わって生きるという表現。現在、ほとんど使われることはない。

例：Бие арилжих цаг минь ч ойртож л байна

- ② төрөл арилжи- (törül—)

死ぬと人間とは違った生き物に生まれ変わるという表現。

例：Төрөл арилжих цаг минь боллоо.

(2) соли- (soli-—交替する)

① дүрээ соли- (dūriye—)

今の姿から、新たな姿に変わるという表現。(төрөл арилжи-参照)

② жанч соли- (jangči—)

僧衣を替えるの意。僧侶についての表現であるが、現在は使われることはない。

類似表現：жанч хал- (—qala-)

(3) бол- (bol-—～なる)

① бурхан бол-

現世での善行により「仏」になるという表現。

類似表現 тэнгэр бол-

例：Аав минь 80 хүрээд бурхан болсон.

7. 葬送儀礼による表現

(1) энгэр (engger—山の南斜面)、хадан (qada-n—岩山)、
шороо (sirui-n—土)

死後、死体がどこに埋葬されるか、埋葬場所をもとにした表現。

① энгэр бараад- (—baraqada-)

② энгэр түш- (—tüsi-)

③ энгэр дэрл- (—derele-)

④ энгэрт гар- (—du gar-)

⑤ энгэр гэрт оч- (—ger-du oči-)

死人を山の日当たりの良い斜面に埋葬する習慣にもとづいた表現。

例：Хоёр хөгшийнгөө энгэрт гарсанаас хойш түших хүнгүй их л
зовж явна даа би.

⑥ хад түш- (—tüsi-)

⑦ хадан гэрт оч- (—ger-du oči-)

死人を岩山に埋葬する習慣にもとづく表現。

例：Хөгшин минь хад түшсэнээс хойш гурван жил болчихлоо.

- ⑧ шороонд ор- (—du oru-)
- ⑨ шороонд бүрэгд- (—du бүригдe-)

死人を土に埋葬する習慣にもとづく表現。

例：Чи бид хоёр өнөөдөр баян ядуугаар ялгаатай байвч шороонд орохоороо адилханл өт хоройны хоол болно шүүдээ.

(2) онгод (ongcud-—精霊)、авсан (absan—柩)、булшин (bulasin—墓)

- ① онгодынд бараалх- (—du baragalqa-)

先祖に会う(先祖の墓所に埋める)という表現。

例：Тэр хүн аль хэдийд онгодындоо бараалхсан гэнэ.

- ② авсанд ор- (—du oru-)
- ③ булшинд ор- (—du oru-)

墓，柩に入るの意。

例：Нүгэлтэй амьтан булшинд орох нь болоогүй юм байх даа.

(3) маань (mani—経の一種)、тарбаченбо (tarbacenbo—経の一種)、
будаа (budaca—飯)

- ① маань уншуул- (—ungsigula-)
- ② тарбаченбо уншуул- (—ungsigula-)

上の2例は、お経を読ませるの意。葬式に経典を読む習慣にもとづく表現。

例：Тэр хөгшин 85 хүрээд маань уншуулсан даа, хөөрхий.

- ③ будаа идүүл- (—idegüle-)

飯(穀物)を食べさせるの意。葬式に会葬者に飯を供する習慣にもとづく表現。

8. 定めとしての「死」

「死」は自然の摂理、この世のしきたりであるという考えから生まれた表現。

(1) ёс (yosu-n—法則)、

① ёс үзүүл- (—üjegül-)

② ёс даг- (—daga-)

③ ёс (оор) бол- (—bol-)

しきたりに従うの意。

例：Хэн ч гэсэн ертөнцийн ёс дагах хуультай, үүнийг тойрч
гарах хүн нэг ч байхгүй.

(2) мөнх (möngke—永遠)

① мөнх бус үв- (—busu üje-)

この世に永遠なるものはないという考えから生まれた表現。

例：Ертөнцд үхэж мөхдөггүй мөнх юм гэж байдаггүй хуулиар
хүний амьдрал ч бас ертөнцийн мөнх бус үзүүлэх хуультай.

9. その他の婉曲的表現

(1) бол- (bol—～なる)

① алга бол- (alag-a—)

② үгүй бол- (ügei—)

上の2例は、この世から消えるの意。主に幼児の死に際する表現。

例：Нөгөө саяхан гарсан хүүхэд нь алга болсон гэнэ.

③ муу бол- (масу—)

④ эвгүй бол- (eb ügei—)

上の2例は、「だめ」になるの意。生きていれば「сайн」、死ぬのは「муу」という一般的な理解から生まれた表現であろう。主に幼児の死に際する表現。

例：Тэр хөөрхий нялх амьтанаа эвгүй болсноос хойш санаа
сэтгэлээр унсаар яваад бараг өвчтэй болчихжээ.

⑤ хүн болохгүй (kumun—ügei)

⑥ бүтэхгүй бол- (butuku ügei—)

上2例は、「人」にならなかったの意。生まれたばかりの幼児が死ぬ際の表現。

例：Тэр нялх амьтан нь яаж эмчлээд ч хүн болсонгүй гэнэ.

⑦ зөв эс бол- (jobe ese—)

古語。敬語的表現として『元朝秘史』に見られる表現。

例：qahan aqa minu job ese bolu'asu olon mongqok ulus
onecirekun... 『元朝秘史』 No.272.

⑧ эзгүй бол- (ejegüi—)

主がいなくなるの意。

例：Гэрийн эзэн эзгүй болсноос хойш хэдэн хүүхэдээ ганцаараа
өсгөх гэж ядарч байгаа хүн дээ.

⑨ талийгаач бол- (talaygači—)

⑩ жийлийгээч бол- (jiliigeči—)

上2例は、「遠くへ旅立つ人」となったの意。

類似表現：талийгч бол-, жийлийгч бол-

例：Саяхан л инээж байсан хүн өнөөдөр болоход талийгаач
болчихсан байдаг.

⑪ бүрлээч бол- (bürilegeči—)

主に突然の事故等で急死する際の表現。

例：Ах нь машины ослоор бүрлээч болсон гэнэ.

(2) од- (od—行く)、яв- (yabu—行く)

① хагацан од- (qacasan—)

② салан од- (salan—)

③ орхин од- (orkin—)

上3例は「去って行く」の意。主に親しい人の死に際する表現。

例：Дотно хайрт нөхөр минь биднээсээ үүрд салан одлоо.

④ хол яв- (qola—)

⑤ урт аянд яв- (urtu ayan-du—)

上2例は「遠くへ行く」の意。

例：Тэр муу өвгөнийг уртын аянд явахаас нь өмнө уулзаж
чадсангүй.

(3) 上の(2)と同様の意味(行く, 去る)を持つ語彙

① өнгөр- (önggere-)

② морил-, морд- (morila-, morda-)

③ сажл- (sajila-)

④ жилий- (jilii-)

⑤ талий- (talii-)

⑥ мажий- (majii-)

⑦ залр- (jalар-)

例：Тэр айлын хөгшин саяхан морилчихсан.

(4) 「倒れる」ことで「死」を表す表現

① ойч- (oyiči-)

② ун- (уна-)

上の2例は、肉体的に頑強な人が事故や戦争等で急死する際の表現。

③ өөөд- (öyügede-)

起き上がれないの意。主に年寄りの死に用いる。

(5) 「眠る, 目をつぶる」ことで「死」を表す表現

① нүд ани- (nidü-n ani-)

② мөнх нойрс- (mōngke noyirsu-)

③ үүрд нойрс- (egüride noyirsu-)

④ дугжр- (dugujira-)

永眠するの意。

例：Хүнд тустай яваарай гэж хөгшин эцэг минь нүд анихынхаа
өмнө хэлж билээ.

(6) その他

① хөл амр- (köl amura-)

② хөл жий- (köl jigi-)

現世で歩きまわる足を休めるの意。

③ буруу хар- (burucu qara-)

④ цааш хар- (čagasi qara-)

反対方向をみるの意。主に悪人の死に際する表現。

⑤ энд- (ende-)

不運に見舞われるの意。主に幼児の死に際する表現。

* * *

本稿をまとめるにあたり、モンゴルの多くの方々のご協力を得た。特に資料収集の面でモンゴル国立大学のCh. ルブサンジャブ(Luvsanjav) 博士，同大学の故Ts. シャルフー(Sharkhuu)氏，分析，例文作成の面で師範大学のD. トムルトゴー(Tmurtogoo) 氏に大変お世話になった。記して感謝の意を表する次第である。

注

(1) K. Kagaster, M. M. Haltod, *Über einige Ausdrücke für 'sterben' im Mongolischen*, Helsinki, 1964.

(2) 辞典類は主に以下を参照した。

Я. Цэвэл, *Монгол Хэлний Товч Тайлбар Толь*, Улаанбаатар, 1966.

F. D. D. Lessing, *Mongolian-English Dictionary*, Berkeley und

Los-Angeles, 1960.

Ч. Лувсанжав, Орос Монгол Өвөрмөц Хэллэгийн Толь, Улаанбаатар, 1970.

小沢重男「現代モンゴル語辞典」大学書林, 昭和58年。

協力を願ったモンゴル人学者名は本文末尾に記載した。

(3) *ibid.*, K. Kagaster, M.M. Haltod, pp. 99~100.

(4) *ibid.*, pp. 103~104.

(5) *ibid.*, p. 104.